

展示品一覧

今回展示の大図4鋪は文化元年8月1日に幕府に提出し、9月6日に將軍徳川家斉の上覧を受けた「日本東半部沿海地図」の控図である。そのため最終上呈版とは区割りも大図の番号も異なる。なお、今回展示されている4鋪の大図の範囲については、石川県支部による「加賀藩測量の足跡をたどる」（会報第73、74、76、78、79、87、88号）という詳細な踏査記録がある。

○ 大図（石川県東部・富山県西部）

「自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十四之一〈自宮越／至東岩瀬／及氷見／又至分道今浜〉」

国宝：地図・絵図類 番号28 縮尺1/36,000

第四次測量の享和3年7月3日に金沢城下を出立して宮越から今浜までの日本海沿岸の単調な砂浜の部分と、氷見から東岩瀬までの富山湾岸と、富山城下までの測線が描かれている。この大図の測量期間は享和3年7月3日～5日、8月2日～5日である。大図の外側に

「自宮越 北二尺二寸二分二厘 至今浜 東一尺二寸九分」

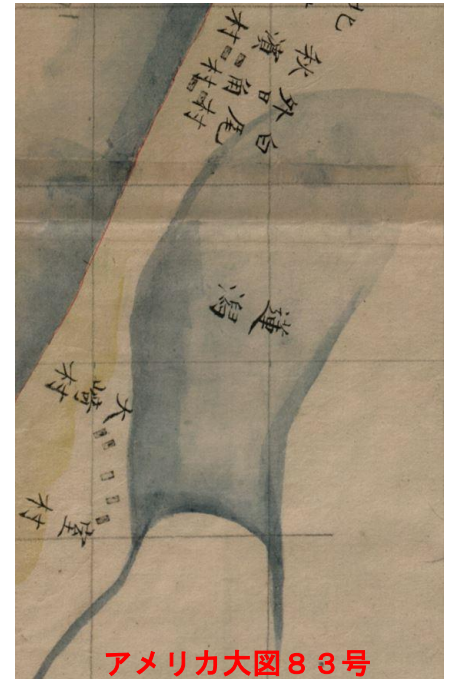
「自宮越 北一尺三寸八分 至東岩瀬 東五尺三寸九分七厘」

「自今浜 北二寸一分三厘 至氷見 東二尺一寸〇六厘」

と墨書され、大図の測線の末端同士的位置関係が記録されている。

加賀藩測量にあたって地元が具体的にどのように対応したかということを生々しく描いた史料が、石川県側の「加賀藩十村役の手代たちが見た伊能隊」（河崎倫代会員 会報第83号）で紹介した「新田家文書」である。大図では蓮潟（現在の河北潟）が描かれ、内灘の砂丘で日本海から切り離された様子がよくわかる。「新田家文書」には、この時のやりとりが次のように記されている。

「この村の山陰に湖水があるらしいが、何潟というのか」と、手代どもへお尋ねになったので、「蓮潟です」と申し上げました。「ここより道程はどれ程あるか」とお尋ねになったので、「前々より測ったこともないので、存じません」と手代どもが答えたところ、ご自分より「およそ二丁もあるか」とお聞きになったので、「それくらいでしょうか」と聞き流しておきました。



アメリカ大図83号

○ 大図（能登半島南部・能登島）

「自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十四之二 〈自今浜／至黒島 又自宇出津／至氷見〉」

国宝：地図・絵図類 番号29 縮尺1/36,000

享和3年7月5日から能登半島の東海岸を伊能忠敬本隊が、西海岸を平山郡蔵の支隊が分担する大手分が始まった。この大図の測量期間は支隊が享和3年7月5日～10日、本隊が7月5日～19日、合同で7月23日～8月2日である。大図の外側に

「自今浜 北 四尺五寸〇三厘 至黒島 西 二分四厘」

「自今浜 北 二寸一分三厘 至氷見 東 二尺一寸〇六厘」

「自黒島 北 二寸三分一厘 至宇出津 東 三尺三寸七分八厘」と墨書され、大図の測線の末端同士的位置関係が記録されている。

能登半島西海岸は断崖絶壁が続き、測量日記にも「大難所に付、船にて測量」とあり、大図でも海上に測線が引かれた個所が確認出来る。本隊は邑知潟平野を七尾に向かって進むが、大図の絵画的表現により、測量隊が地溝帯の南縁を進んだことがよくわかる。能登島一帯でも「長縄を以て船にて測量」が続いた。和倉村については「村前海中に塩湯沸出。此辺の者入湯をなす」と記している。

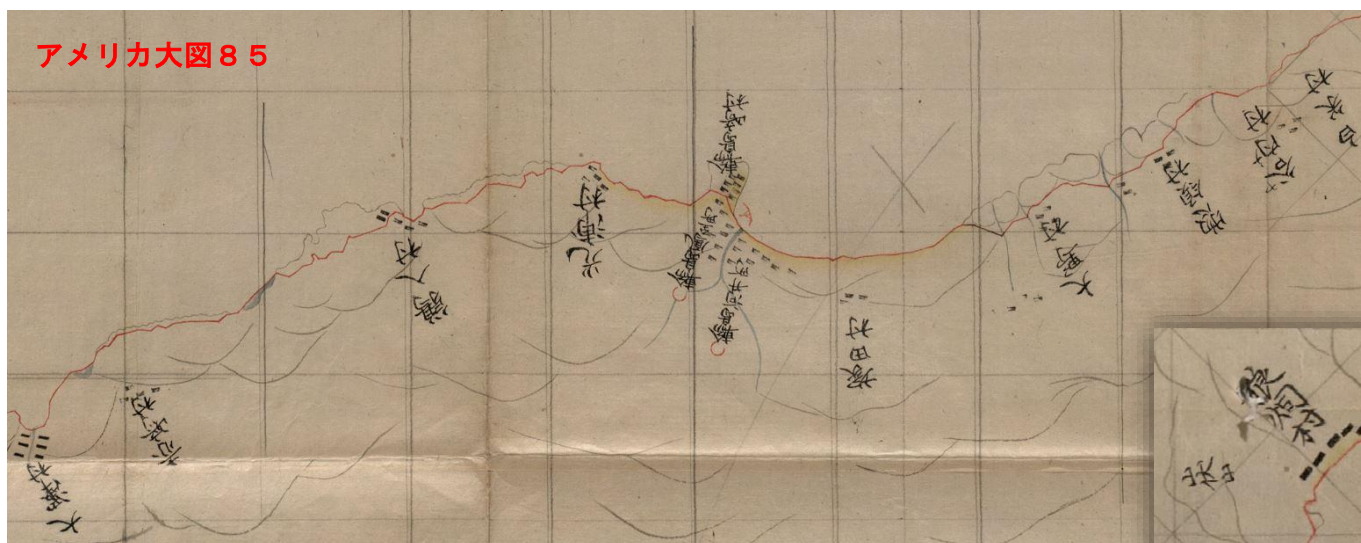


東京国立博物館中図（中部・近畿）

○ 大図（能登半島北部）

「自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十四之二〈自黒島／歴狼畑／至宇出津〉」

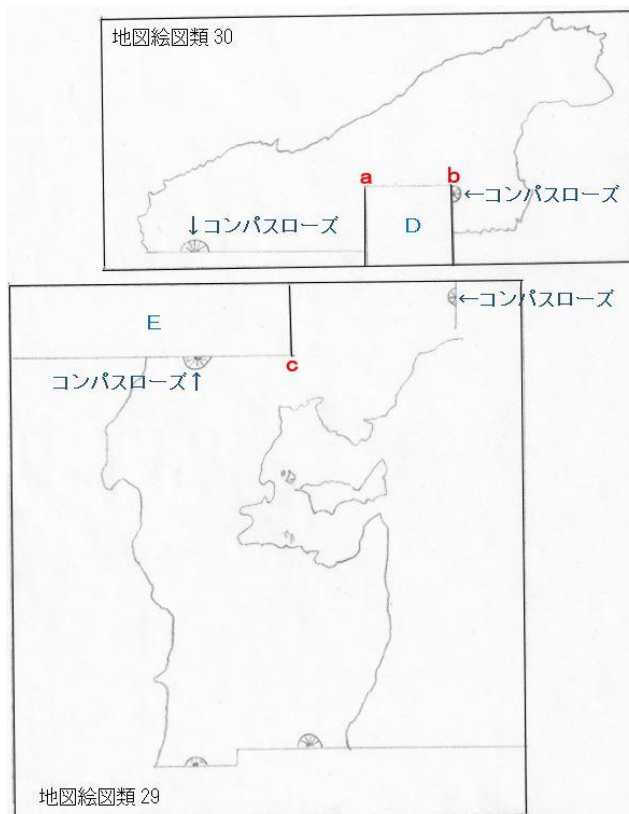
国宝：地図・絵図類 番号30 縮尺1/36,000



この大図の測量期間は支隊が享和3年7月11日～23日、本隊が7月20日～22日である。上の図は平山郡蔵支隊が測量した間垣の里大沢、輪島、千枚田で有名な白米の部分である。測量日記の 享和3年7月13日には「海岸不通行に付、山道を通る」と有るように測線が海岸を離れている。輪島については「繁昌なる所にて、家数も千軒余もあり、膳椀其外器物も出来、索麵よし」と記載されている。

今や能登半島を代表する観光スポットとなった金剛崎では佐渡や弥彦山、立山などを測っている。会報78号53頁には河崎会員による金剛崎からの佐渡や米山の写真が掲載されているのでご覧いただきたい。7月20日の測量日記には「川浦村狼煙岬を通して**狼煙村**(休宿九郎右衛門)、海辺を経て珠洲岬に至る。実名は金剛崎と云よし。此所にて佐渡国金北山・越後弥彦山・米山・旗持山、越中立山剣等を測」と記し、狼煙村には「のろし」と仮名を振っている。大図の外側には「自黒島 北 二尺三寸二分八厘 至**狼畑** 東 四尺九寸二分六厘」との墨書がある。漢和辞典によると「畑」は「煙」と同じとしている。ところがこの国宝の資料名には「自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十四之二〈自黒島／歴**狼畑**／至宇出津〉」と「狼畑」と記載している。しかし国立公文書館の能登国の天保国絵図や郷帳等々を調べても能登国には狼畑村は存在せず狼煙村だけであるので、狼畑は狼煙の誤記である。確かに畑と畑は紛らわしい。国宝の大図中の表記をミュージアム・グラスで確認しても、火偏に司のようにも見える。アメリカ大図も同様である。徳島大学中図でも狼畑村と誤記している。

なお、能登半島中央部・能登島の大図と能登半島北部の大図を接合する部分には、右図のようにコンパスローズだけではなく、**a**、**b**、**c**の3個所にスリット（切り込み）が入っているのも特色である。**D**と**E**は裏側に折り込み、二つのコンパスローズが接合するようにして重ね合わせることができる。



○ 大図（富山県東部～新潟県西端部）

「自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十五〈自東岩瀬／至哥〉」

国宝：地図・絵図類 番号31 縮尺1/36,000

この大図の測量期間は享和3年8月5日～8日である。大図の外側に「自東岩瀬 北 二尺五寸七分四厘 至哥 東 四尺二寸一分八厘」と墨書され、大図の測線の末端同士的位置関係が記録されている。

この大図は単調な海岸線が続くだけであり、測量日記もまた淡々と村名を列記するだけで単調である。8月8日に越後に入ると測量日記には「親しらず子しらず難所あり」と記載されているが、大図には海岸線に「親不知」の文字があるだけで難所感はない。

8日に哥に到着すると、糸魚川の間屋八右衛門が挨拶に訪れたので、糸魚川領内の海岸測量の手配を協議した。夜間の天体観測の場所が確保出来ない。姫川は急流で海際は百間あり、渡船川越は出来ないとの説明があった。そこで「姫川手前迄海辺を相測、それより街道へ上がり姫川を渡らんと一同申合す」となった。糸魚川事件の前日のことである。



○ 測量日記

「享和三癸亥歳沿海日記 上」 国宝：文書・記録類 番号73

7月1日に忠敬が宮越村から発出した佐渡までの先触の宛先の部分と、能登の手分け測量の添触の部分が展示されている。下はその部分の翻刻である。

<p>先触の通測量順行致候。右道筋其村々案内致し可給候。</p>	<p>右は、就海辺測量御用、来四日、加州宮腰町出立。能州今浜迄罷越、弟子共は西海辺手分にて相廻し、我等上下五人、井に長持荷物共、飯山高畑通七尾へ通行。それより東海辺に添、珠洲岬辺迄測量致し、手分の者と落合一同に相成、尚又、七尾へ引返し</p>	<p>一、人足 五人 覚 一、馬 三疋 添触 一、長持 老棹 内老足は人足一人に代 此持人足</p>	<p>越中国 越後国 惣て浦々添い 同国 出雲崎 佐渡国 渡海 小本湊 迄 右浦付の村々</p>	<p>今浜より 西海辺 珠洲岬通 東海辺</p>
----------------------------------	---	--	--	--------------------------------------

○ 測量日記

「享和三葵亥歳沿海日記 下」 国宝：文書・記録類 番号74

7月20日の測量日記の最終行から22日までの測量日記と、7月5日から7日までの平山郡蔵の手分け測量分の測量日記が展示されている。下はその部分の翻刻である。

此夜中晴測量。此湊四ヶ所にて家二百軒余あり
同七月二十一日朝晴。六ツ後小木新町出立。昨日測終、小木日和山の下より初る。
白山・立山・米山等を測。市ノ瀬村・越坂村・新保村・
長尾村・白丸村、それより仕越測。四方山村・立壁村、各加州領
九ツ半後に白丸村へ帰着。止宿一向宗西方、波声山高原寺。此夜曇天。
不測量。
同二十二日朝大曇。六ツ前雨。六ツ頃白丸村出立。立壁村に至て初る。
途中より風雨。入海測量難儀に及へり。此入海を川尻 九里川尻村
小川流 入海と云
あり 布浦村・松波村 各加州領 九ツ半後手分平山郡蔵と
海辺にて測量出會、双方一同上下八人にて止宿へ着 佐五兵衛と云
家作よし
此夜曇天。五六星雲間に測。能州御料所加州御預合六十二ヶ村。
高一万三千七百五十四石四斗八升三合三勺。内 本田一万二千六百三十三石二斗六升一合三勺
新田千二百二十一石式斗式升式合

平山郡蔵 能州西海辺手分

七月五日 今浜村海辺より手分測量、加州御預所掛下役外浦付
松井伝右衛門・坪内清五郎兩人西海辺 能州にては 御預所見回付添、外に
外浜と云 今浜より所ノ口迄陸地
番代 十村大庄屋 治助・和助兩人案内なり。宿村 岡道に人家あり
手代よし
加州 敷浪村 同断、岡に人家あり 柳瀬出村・柳瀬村・新保村
本領 御料所加州御預 各加州 今浜手分より一里二十九丁四十間
粟生村・塵浜村 本領 止宿藤兵衛 泊触は同様なれば前後不記

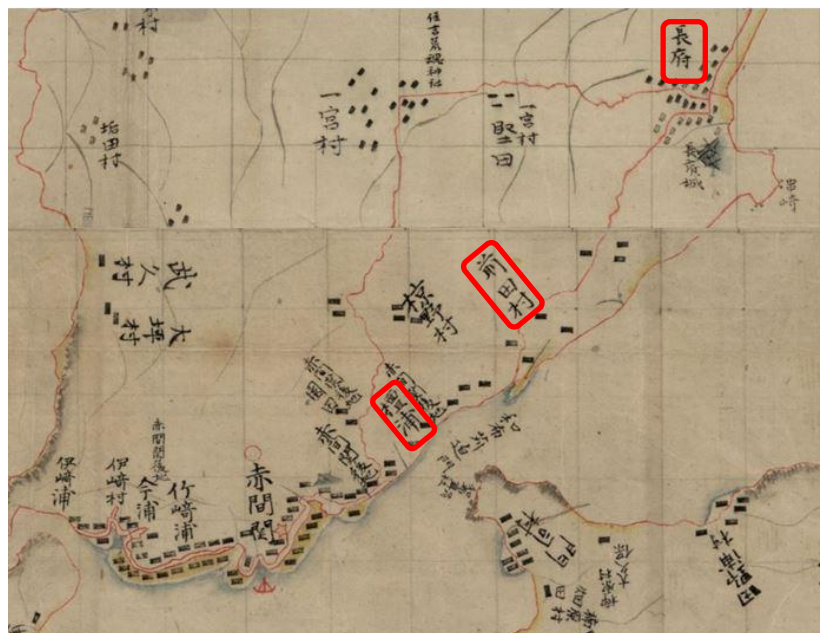
同六日 塵浜村出立。羽咋村 加州 羽咋川 一日 を渡て
領 塵浜川
一宮村 能州一宮、気多太神宮あり崇仁 滝村・柴垣村 休宿
天皇御建立、神主大官司別当長福院 与兵衛
クミタニ 執谷にも 大嶋村・長沢村・大忍寺村・同新村
執谷にも 各加州領 止宿佐渡屋又三郎 塵浜より三里二十一町三十三間
執谷にも 川尻村の 小船川中に 町村
あらんか 川を渡て 川尻村 かかる
安部屋村 両村人家統にて沙かり潤あり ウッへ 上野村・大津村
弁天島に燈明堂ありと云

○ 参考絵図(関門海峡付近)

「自長門国長府至長門国豊浦郡前田村参考絵図」 国宝：地図・絵図類 番号672

「長府領御裳川付近参考絵図」 国宝：地図・絵図類 番号675

関門海峡付近の参考絵図が2鋪展示されている。一村単位の村絵図ではなく、長州藩領のまとまった地域の参考絵図である。色分けの凡例はないが両図共に同じ色分けで描かれている。御裳川は右の大図の壇浦付近である。



アメリカ大図177号・178号